E-Malt、世界の大麦供給見通しを1億5,620万トンに上方修正

オーストラリアの大麦収穫量は過去最高の1,810万トンと予測され、麦芽製造業者やビールメーカーの調達圧力が和らぐ可能性

2026年11月20日（金）



E-Maltが11月20日（金）に公表したレポートによると、オーストラリアの収穫量が過去最高の1,810万トンに達するとの予測を受け、世界の大麦供給見通しは1億5,620万トンに上方修正された。

同レポートは、世界の供給見通しの引き上げは、オーストラリアの収穫量予測が上振れしたことを反映していると説明した。一般公開されている概要では、他の生産国の見通しの変化や、従来の世界供給予測の規模については詳しく触れていない。

オーストラリアは世界の大麦貿易における主要な供給国であるため、今回の修正は重要だ。同国の収穫量が増えれば、市場に出回る輸出可能な数量が増え、需要が安定している場合には、他地域の

供給が逼迫する状況を補う可能性がある。世界の穀物市場では、大規模輸出国の生産量の変化が、供給見通しや貿易の流れ、輸入国の調達判断に速やかに影響することがある。

大麦は飼料として広く使われる一方、麦芽製造の主要原料でもある。そのため、安定した品質の穀物を継続的に確保する必要があるビールメーカー、蒸留酒メーカー、麦芽製造業者にとって、供給見通しは重要だ。大麦の供給が増えれば、麦芽メーカーの調達環境が改善し、ビールメーカーの原料コスト上昇圧力が和らぐ可能性がある。ただし価格への影響は、輸送費や為替レート、地域ごとの需要に加え、最も重要な点として、収穫物のうち飼料用規格ではなく麦芽製造規格を満たす割合にも左右される。

収穫された大麦がすべてビール製造に適しているわけではないため、この違いは重要だ。麦芽製造業者は、タンパク質含有量や発芽品質、粒の特性など、特定の条件を満たす大麦を購入する。豊作になれば総供給量は増えるが、飲料業界にとっての恩恵が大きくなるのは、収穫物の相当な割合が麦芽製造に適している場合だ。収穫期の天候や保管状況、物流も、基準を満たす穀物の量に影響し得る。

E-Maltの最新情報は、オーストラリアの見通し改善を受け、書面上では市場の供給状況がより安定してきたことを示している。それでも、収穫データの確定や輸出業者による国際市場への出荷開始に伴い、穀物の需給バランスは急速に変わり得る。輸入業者や加工業者は通常、収穫量の速報値だけでなく、販売年度を通じて実際にどれだけ利用可能な穀物が出回るのか、またどの産地の価格競争力が高いのかを見極める。

ビールメーカーにとって、世界の大麦見通しは、麦芽への加工コスト、エネルギー価格、包装費用、消費者需要なども含む、原材料をめぐるより広い状況の一要素だ。それでも大麦はビール製造で最も重要な農産物原料の一つであり、世界的な供給の増加は飲料のサプライチェーン全体で注視されている。供給が増えれば不足のリスクは下がるものの、メーカーのコスト削減に直ちにつながるとは限らない。

今回のレポートの更新により、今シーズンの大麦市場の動向を左右するオーストラリアの役割に、改めて注目が集まっている。同国の収穫量は1,810万トンと予想されており、飼料用大麦と麦芽用大麦の買い手は、増産が世界の供給状況をどの程度変えるかを判断するうえで、作柄の品質や輸出の進捗、他産地との競争を注視するとみられる。